

# RUNNEL ランネルデッキ 施工要領

## 1. 下地ネダ

- 材質 材質木製ネダ、アルミ製ネダ、鋼製ネダ(亜鉛めっき鋼板など)  
※木製ネダにつきましては、固定ビスの引抜強度が発揮される材料をご使用下さい。  
→デッキ材は木粉・プラスチック成分が含まれている為、吸水・温度による伸び縮みが発生します。  
20°C50%RH平衡状態→50°C90%RH平衡状態の伸び率=0.15%  
(L1000mmあたり1.5mmの伸び)  
伸びによりビスの抜けが発生しないネダを設定下さい。またネダが伸びで浮き上がらないように、ランネルデッキとネダは、しっかりと固定して下さい。

	デッキの固定方法	
	QCS方式	脳天ビス方式
木根太	幅50mm以上	幅70mm以上
アルミ根太 鋼製根太	幅50mm以上 t=1.2mm以上	幅70mm以上 t=1.2mm以上

- ネダ間隔 芯芯400mm以下として下さい。
- デッキ材の片もち距離 ネダ芯から100mm以下
- デッキ材の目地巾 目地巾は、5mmで設定下さい。
- 

## 2. 束、大引

- ◎高さ、下地状況により選定して下さい。
- ◎大引を使用しない場合は束を必ず床(地面)に固定して下さい。  
※しっかりと固定しないとデッキ材の反りにより下地ごと持ち上がる場合があります。
- ◎設置面に固定ができない場合、大引又は根太つなぎを設置して床面の変形を抑える構造として下さい。
- 

※束を固定しない場合、強風でデッキが床組ごと飛散する可能性があります。固定しない場合は、別途飛散防止対策をお勧めします。

## 3. デッキ材のカット

- ◎デッキ材カット用のノコギリ刃は、プラスチック(塩ビパイプ)カット用の刃を推奨します。(デッキ材には、プラスチック成分が含まれている為)  
◎カットの際、デッキ材の小口にバリが付いた場合は、紙やすり(#60程度)で削り落として下さい。

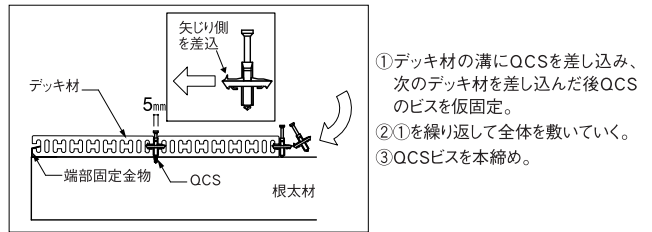
## 4. デッキ材の間隔

- ◎デッキ材の幅方向の目地幅、長手方向ジョイントの目地幅及び周囲の壁や床端部からのクリアランスは5mmとして下さい。  
(温度上昇・給水膨潤により1mm程度の巾の伸びがでる場合があります)  
※突きつけた場合、固定ビスの破壊→面材の剥がれが生ずる恐れがあります。

- ※冬場施工では6mm、夏場施工では3mmなど、施工時期、温度に応じて調整して下さい。  
※デッキ材にはプラスチック成分が含まれている為、温度差で伸び縮みが発生します。  
冬場施工時には、十分に目地を設定して頂かなければ、夏場の温度上昇吸水率で伸びが発生し、デッキ材が突き付けになって破損が発生する場合がありますのでご注意ください。
- 

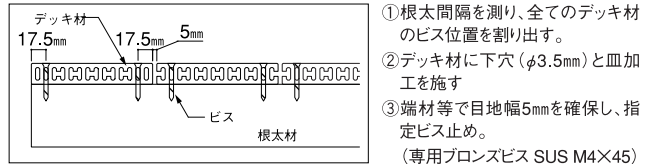
## 5. デッキ材固定

- 【QCS方式】推奨工法 - ビスの露出がなく早くて確実(下穴加工等不要)



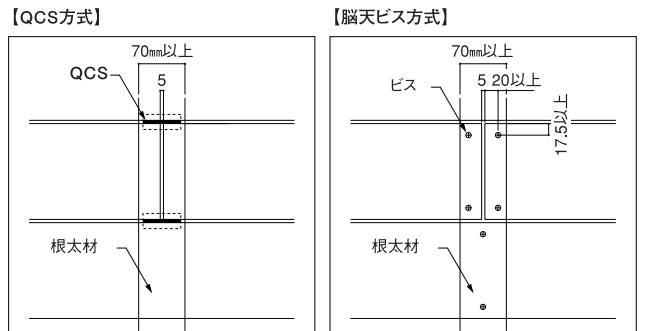
- ①デッキ材の溝にQCSを差し込み、次のデッキ材を差し込んだ後QCSのビスを仮固定。
- ②①を繰り返して全体を敷いていく。
- ③QCSビスを本締め。

- 【脳天ビス方式】従来型一般工法

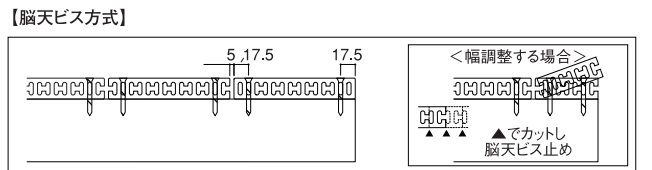
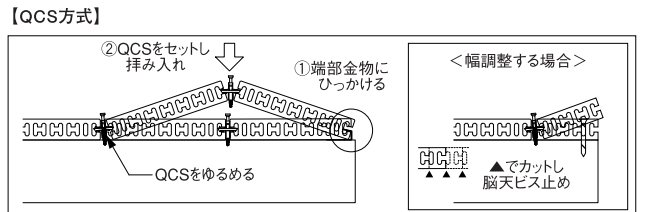


- ①根太間隔を測り、全てのデッキ材のビス位置を割り出す。
- ②デッキ材に下穴(φ3.5mm)と皿加工を施す
- ③端材等で目地幅5mmを確保し、指定ビス止め。  
(専用ブロンズビス SUS M4×45)

## 6. デッキ材 長手ジョイント部の固定

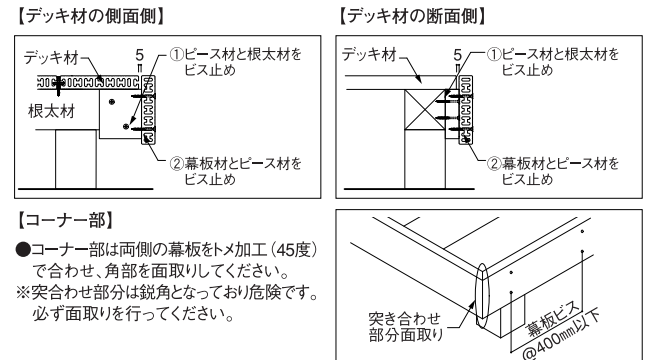


## 7. デッキ材端部調整



## 8. デッキの小口処理(幕板)

木口には幕板を設置するとすっきりと美しく納まります。



- 【コーナー部】  
●コーナー部は両側の幕板をトメ加工(45度)で合わせ、角部を面取りして下さい。  
※突合わせ部分は鋭角となっており危険です。必ず面取りを行ってください。

※汚れ落しにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。中性洗剤を水で薄め、柔らかい布で表面をこすって落とします。最後に水洗いしてください。